

高野山真言宗  
備福山正智院 駕龍寺

住所 〒710-0042  
岡山県倉敷市二日市600  
電話番号 086-421-5631  
発行人 富山義賢  
ホームページ <http://www.karyuji.jp/>



高野山開創  
1200年



駕龍寺定紋

題字 / 弘法大師



# 神仏と共に在る

## 心を育てる

備福山 正智院 駕龍寺

住職 富山 義賢



我が家にも長男が誕生して、一歳三か月になりました。将来の進路は自分が決めるにしても、お寺の子に生まれたことを将来幸せに感じられるようになって欲しいと願い、日々接しています。

日本では昔から「三つ児の魂百まで」といい、幼稚園から小学校時代にかけて、人間の魂の方向、性格ができあがるといわれます。だからこの時期に、神や仏という絶対者と共に在るとい確信を持たせることが大切なのですが、無宗教教育に育てられた日本人にはそれが分かっていないのが現状です。

海外勤務の商社マン夫妻が、子供の誕生日に現地のお友達を招いて食事を出し、食後にコーヒーを出したところ、誰もコーヒーを飲まないのです。坊やに再度勧めたら、「子供はコーヒーを飲んではいけないとママが言うから」という。日本の母親はつかつかにも「でも今日はママがおられませんか」というと、子供たちは「神様が見ておられます」と答えたといわれています。

「誰が見てなくても神様が見ておられる」

これは悪事に対する強い抑止力であり、また、神仏と共に在る確信は揺るぎない安定感の土台なのです。だから、どこの国でも宗教を基盤にして子供を育てることが行われるのです。

また、初対面のとき、「あなたの宗教は？」とたずねる。これは、相手の宗教を尊重するとともに、その宗教のタブーに触れまい、犯すまいとする、配慮であるとともに、宗教を持たないものは信じるに足りないとする警戒から生まれたものですが、島国育ちの、世間知らずの日本人の中には、無宗教を唱えることをいかにもインテリであるかのように錯覚している人が多いようです。これでは、日本人が国際的な場で信用されないのは当然といえるでしょう。本当は、インテリにこそ宗教は必要なものであり、大切なものであるということを知らない所に、カルトブームが醸成される土壤があると思います。

明治五年の学制公布以来、宗教は教育の域外に押しつけられ、特に大東亜戦争後の日本国民は公教育の場では、無宗教教育に育てられました。しかし教育の基盤に、宗教がいかに大切なものであるか、

それはいみじくも聖徳太子が十七条憲法の第二条に明確に述べておられます。

篤く三宝を敬え。

三宝とは仏法僧なり。即ち四生の終帰、万国の極宗なり。何れの世、何れの人か是の法を貫ばざる。人尤も悪なるは鮮し、能く教うれば之に従う。それ三宝に帰せずんば何を以てか枉れるを直くせん。

多少噛み砕いていうと、「仏法僧の三宝を篤く敬わなくてはならぬ。なぜなら三宝は生きとし生けるものの最後の拠所であり、世界各国が究極の規範として仰ぐべきものである。だから時と所を問わず何人もこれを尊ばなくてはならぬ。生まれながらの悪人などはごく稀なものであつて、よく教育すれば従うものである。」

では、教育しても曲がつてしまうのはどうしてか。

「それは教育の根底に三宝を敬う心が欠けているからである。三宝を敬う心を根底としないで、どうしてまともな人間をつくることのできようか」というのですが、三宝帰依の心とは仏教以外の宗教でいえば神を敬う心のことであり、つまり宗教心のことです。

子供の頃は、眼が覚えている限り一瞬の休みもなくいろいろな情報を集め、見るもの聞くもの感ずるものすべてを吸収して成長してゆきます。だから家庭の中に宗教的雰囲気があったよければ、子供は知らず識らずのうちに心豊かに成長してゆくのです。

西洋には「宗教なき教育は賢い鬼をつくる」という諺があります。賢い鬼は家庭や社会を破壊することはできても建設することはできません。まともな社会をつくるためには、賢い鬼をつくらないう宗教情操の豊かな家庭を築くことが大切なのです。

このごろ寺を訪ねてくる人の中に、子供に迷惑を掛けぬようにとか、子供が建ててくれるとは思えないからお墓を造っておきたいという人がありますが、子が亡き親のためにお墓を建てるのは、これまでの養育の恩に報いる当然の親孝行です。それを迷惑などと考える者がいたら、親の恩を思わぬそれこそ鳥獣にも劣る人間です。

だからこそ、老後になってそうした心配をしなくて良いように、親が若いうちに、子供が小さいうちに、真に安らぎのある家庭づくりを心がけることが肝要なのです。

### 道歌

闇の夜も 心の月の 出でぬれば

いづこへ行くも 道は迷わず

南無大師遍照金剛

合掌

高野山開創1200年  
記念大法会

おかせいのり  
—大師のみおしえ いまここに—

平成27年4月2日～  
5月21日

# 駕龍寺の新たな恒例行事を創設

## 酒樽観音大祭 大般若転読法会

十一月十七日(日)午前十時より

駕龍寺には、帯江三十三観音霊場の十九番と二十二番、そして三十三番札所として三体の観音様が祭られています。中でも三十三番の結願の観音様は、酒樽の上に立たれている大変珍しいお姿をされており、心身の健康、家庭の円満、仕事の成功等に大きな功德があります。

そのお姿にちなみ駕龍寺では新しい恒例行事として毎年十一月の第三日曜日に、酒の功德を称え、そのありがたさに感謝して酒を奉納して供養する酒樽観音大祭の創設を發願いたしました。当日は住職以下、結衆各寺院方が参集し、午前十時から酒樽観音前で法要を行います。本堂では大般若經六百卷を転読して除災招福を祈る大般若転読法会を行います。他にもお札の授与、振る舞い酒などの催しを計画しておりますので、ぜひご参加下さい。

食の安全が危ぶまれてきている今こそ、飲食感謝・報恩謝徳の精神から生活の安全を祈願いたしましょう。詳細につきましては追ってご案内申し上げます。



境内中門脇の酒樽観音



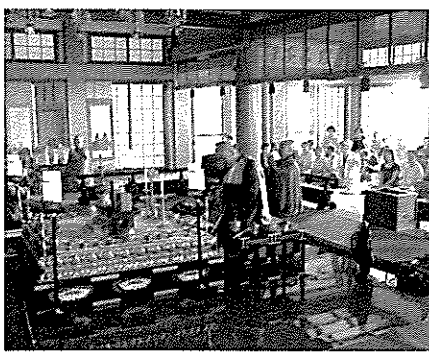
# 備福山小史 平成二十四年 下半期

## 孟蘭盆大施餓鬼会

八月十七日、午前十時より駕龍寺本堂にて毎年恒例の孟蘭盆大施餓鬼会が厳修されました。

法会では初盆を迎えられる精霊のご遺族を中心に、多数の檀信徒の皆様方々が参列され、富山住職導師のもと法縁寺院各師の読経の響く中、参列者は焼香して、各家先祖代々ならびに有縁無縁一切精霊の冥福を祈りました。

法会に引き続き住職の法話があり、その後参列者は内陣に設けられている精霊檀と本堂入口の施餓鬼棚に自らの手によって施食の供養を捧げ、お盆の行事を締めくくりました。なお、八月一日より祀られていた檀信徒各家の精霊は同日夕刻、住職によって密厳浄土へ再び奉送されました。



## 駕龍寺第二十八世 秀元和尚十七回忌

十一月十三日、駕龍寺第二十八世住職秀元和尚の十七回忌が駕龍寺本堂にて厳修されました。

当日は午前十時より駕龍寺本堂にて、結衆、法類、法縁各寺院出仕のもと行願院(倉敷市西岡) 林孝祥住職を御導師に平座理趣三昧にて奉修、堂内には秀元和尚の位牌ならびに肖像が安置され、読経の中、富山義賢住職はじめ寺族、役員、総代が順次焼香し秀元師の遺徳を偲びました。

法会に引き続き、本堂裏山の墓所に移動し参列者全員で献香。御法樂を捧げ、和尚の冥福を祈りました。その後倉敷美観地区の旅館鶴形に場所を移し齋食となり、午後二時過ぎ散会となりました。



# 団参報告

平成二十四年十一月二十七・二十八日

昨年十二月二十七、二十八日の両日、秋の団参として九州二十四地蔵尊霊場巡拝を実施しました。この旅行は一昨年の秋の団参(二十四地蔵尊霊場前半)に続くもので、福岡県・佐賀県・長崎県の広範囲にわたる各札所を一泊二日で廻る旅となりました。

今回参加された方の多くは、以前の駕龍寺主催の参拝旅行から参加されている方も多く、もはや恒例となった早朝五時の集合にも慣れたもの、途中の宮島インターまでしっかりと睡眠をとっておられました。天候にも恵まれ、順調に行程を運び、一日目は福岡大仏の東長寺でその大きさに圧倒され、日本三大八幡の一つ

宮崎宮で道中の無事を祈願し、釣瓶落としての秋の日の通りすっかり日の暮れた、午後六時宿泊先の宿に入りました。ホテルの大浴場で、疲れを癒し、心づくしのお料理に舌鼓を打ち今日の出来事の語り合いもそこそ

こに、明日に備えて就寝したようです。

翌日は、佐賀から長崎へ廻って倉敷に戻る強行軍、引率者の心配をよそに皆さん元気一杯、余りの健脚に我々のほうが舌を巻いたほどです。途中佐世保市内を通り軍港としての賑わいを車窓に眺め、展海峰で記念撮影。



少々風が強かったものの、九十九島の百八十度の絶景をバックに記念撮影、ツアーのお詣りでは絶対に体験のできない、素晴らしい思い出となりました。

行程の都合上、結願の二十四番札所の文殊院を最初にお参りしたために、今回の打納めは十二番札所の本願院となりました。霊場事務局の高瀬覚照文殊院住職さまが、我々一行の到着に合わせて、福岡からわざわざ佐賀市内の本願院へ結願之証をお届けくださり、そのご配慮に対し、成満の喜びに輪をかけて感激いたしました。

この度の巡拝では、前回参加されて今回参加が叶わなかった方や、今回から参加された方もいらっしやいましたが、事務局の格別のお計らいにより、前回のみ、今回のみの参加者にも結願之証が授与され、参加者全員が無事に成満いたしました。

今回の旅行の実施に当たり、毎回企画段階からご尽力くださるJTB倉敷支店の廣瀬課長、東洋バスの勝山ドライバー、細やかな気配りと、記録写真撮影で旅を支えてくださる(株)のうえの森田弘之氏・(株)ほうりんの横田考洋氏に心から御礼申し上げます。

南無地藏大菩薩

南無大師遍照金剛

合掌

写真提供

横田考洋氏

森田弘之氏



## 募集

駕龍寺心の旅バスツアー

### ●近畿三十六不動尊霊場巡拝

(日帰り・全六回程度)

この世を幸せに過ごし、あの世でも救われるために剣索を手に、炎を背負っていかに難しいことでも御救い下さるお不動さま。近畿三十六不動尊霊場は近畿地方二府四県の古寺顕彰会が中心となって昭和五十四年に開かれた霊場です。平日の六回(予定)で近畿三十六不動霊場を効率よく巡拝します。気軽に無理のない期間で有名寺院を訪ねることができますのでどうか御参拝なさって御利益をお受けください。

#### ○住職同行・三食付

納経と道中のお世話は添乗員がいたします。

#### ○第一回 出発日 四月五日(金)

#### ○旅行代金

お一人様・大人 一万五千元

(納経帳・朱印代別途)

#### ○申込期限 三月二十八日(木)

※二回目以降の日程は順次お知らせします。

お申込み、お問い合わせは駕龍寺までお願いいたします。

お答えします

Q

先日僕の祖母が亡くなりました。人が亡くなれば神社の鳥居をくぐってはいけないというごことは知っていたのですがどれぐらいの期間がたてばくぐってもいいのですか？

四十九日を過ぎればいいという人や五十日を過ぎればいいという人や一年経てばいいという人もいます。

それが正しいのですか。お伺い申し上げます。

(匿名希望)

A

親族が亡くなったとき、身内の者は喪に服しますが、このことを「服忌(ぶつき)」といいます。

「忌」とは故人の祀りに専念する期間、「服」とは故人への哀悼の気持ちを表す期間のことをいいます。

戦前までは、江戸時代に定められた「服忌令」が公的な基準として用いられていました。

この「服忌令」によると、最も期間が長いのが父母の場合で、「忌」が五十日、「服」十三カ月でした。それ以外の親族は、「親等」が離れるに従い期間が短縮されています。

戦後、官公庁などでは職員の服務規程の中で、「忌引き」の期間が定められました。

配偶者は十日間、父母は七日間とするのが一般的なようですが、基本的には各地域の慣例に従っているのが現状です。

「服忌」については、地域に慣例がある場合、その慣例に従うのが適切です。特に慣例がない場合には、五十日祭までが「忌」の期間、一年祭(一周忌)までを「服」の期間とするのが一般的でしょう。

ですから「忌」の期間である五十日を過ぎれば、原則として神事を再開しても差し支えないと考えられます。

「忌」の期間中は、神社への参拝を遠慮しますが、やむを得ない場合には、お祓いを受けるのがよいでしょう。(神社本庁HPより)

参考に、簡易服喪表を掲げておきますので、ご活用ください。

このコーナーでは皆さんの質問にお答えします。真言宗に関する質問以外でも結構ですので、ご質問をお寄せください。採用された方には粗品を進呈いたします。

簡易服喪表

御家族・御親戚の方が亡くなられたとき、神社にお参りなどご遠慮する期間です。

自分との続柄	喪に服する期間
父・母	五十日
夫・妻	五十日
祖父・祖母	三十日
同母方	二十日
叔父叔母	二十日
同母方	二十日
兄弟姉妹	二十日
従兄弟姉妹	三十日
子	二十日
孫	十日
甥・姪	三日

右記の期限が過ぎれば

- 1、神社に参拝する事
- 2、家族の神棚を祀る事
- 3、神様のお神札(ふだ)やお守りを受ける事
- 4、神社の頭屋や当番などの役を務めること

右のこと全て差支えありません。そのほか詳しいことはお近くの神職か又は神社庁に御問合せ下さい。

お願い

お大師さま高野山開創 千二百年を迎えるにあたって

「参与会にお入りください」

お大師さまは今もなお高野山奥之院で永遠の御入定に入っておられます。その願いはすべての宗派や身分・職業・果ては国境をも越えて生き続けています。ここに、弘法大師を尊び敬愛し、信仰する皆様と共に弘法大師高野山開創千二百年大法会を成功に導くため、何卒お力添えをたまわりたく、高野山真言宗参与会にご入会下さいますようお願い申し上げます。

皆様方がお大師さまの御加護を受けられ、お幸せでありますように。

高野山真言宗参与会事務局

参与会とは、正式には高野山真言宗参与会といい、総本山金剛峯寺座主・高野山真言宗管長さまを総裁と仰ぎ、弘法大師(空海)のみ教えを守り弘め、お大師さまの衆生救済のご誓願におこたえすることを目的とする信仰団体です。

●お大師さまと共に広げるところの輪、現代の高野聖としてお大師さまのみ教えを広げていくために活動を行っています。会員になられますと、年二回の研修会や、高野山教報の購読、高野

# 高野山通信

## 高野山開創千二百年大法会

### カウントダウン開始

平成二十七年

四月二日～五月二十一日

高野山は今から約千二百年前の弘仁七年(816年)、弘法大師により開かれました。

そこで三年後の平成二十七年(2015年)には、四月二日から五月二十一日にかけて『開創千二百年記念大法会(だいほうえ)』が開かれます。そのため高野山の各所では今からその準備に追われています。

中でも目玉事業と言えるのが、『中門(ちゅうもん)』の復活です。

現在この中門は、昔の火災によって跡形もなく残っていません。わずかに柱を支えていた礎石だけがその名残りをとどめています。そこで、千二百年記念はそれを復活させる、ということ、現在工事が進められています。

高野山といえば「大門(だいもん)」が有名ですが、大門は高さが二十五mなのに対し、中門は少し低い十六mとなります。場所は霊宝館の前、壇上伽藍の傍らになります。

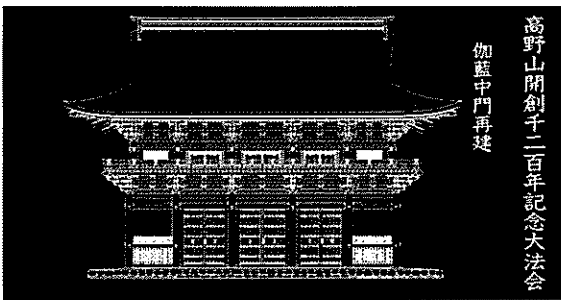
最初の中門は、高野山が開創した三年後の弘仁十年(819年)には

すでに建立されておりました。

しかし長い歴史の中で火災が何度もおき、そのたびに再建してきたものの、直近では天保十四年(1843年)の火災以降はそのままにされておりました。今回一七〇年ぶりの再建です。

四年の長きに亘る工期も残すところ二年余りとなりましたが、日本でも有数の仏閣建築とあって、いつでも誰でも建立の様子が見学できる工夫がなされています(中門作業館)。そして最近では、滅多に見ることができない仏閣建築の現場としても多くの方が観光に訪れています。

皆様も、高野山に登られる機会がありましたら是非、完成前の壮大な現場をご覧ください。



再建中の伽藍中門(完成図)

## 予告 駕龍寺 秋の団参

### ● 出発日

平成二十五年十月中旬以降

### ● 行先

伊勢神宮・高野山(予定)

今年の秋の参詣旅行は二十一年一度の御遷宮を迎えた伊勢と紅葉の高野山参詣を計画しています。

夏頃までには詳細をお知らせ致しますので皆様是非御参加ください。

## 参加会への御入会を お願い致します

二年後に迫った御開創千二百年大法会を目前に檀信徒の皆様へ高野山真言宗参加会の入会をお願いいたします。年会費は一万円、御入会頂きますと様々な待遇があります。(下記参照)

駕龍寺では現在二十八名の参与様が日々お大師さまのみ教えを実践して、宗団を支えて下さっております。本山と皆さんとのパイプ役としてこの機会に何卒御入会くださいませ。様御案内申し上げます。

山へお参りの折りは各所内拝料無料、参拝記念としてお線香を贈呈致します。

● 研修会参加会では、年一回研修を行っております。内容は、受戒、阿字観や法話聴講、勤行、下座行(掃除)御詠歌などです。開催については、毎月二回送られる「高野山教報」でのご案内になります。会員の皆さまからは、大変好評を得ている研修です。

● 物故者慰霊碑は、篤いご浄財により建立され、平成十四年十一月十日奥の院において慰霊碑開眼法会が執り行われました。参与会員は、枢義・参与物故者慰霊碑におまつりし永く供養を捧げます。

● 会員になると、高野山真言宗管長(参与会総裁)より委嘱状をお届けし、参与袈裟と参与バッジを授与致します。また、参与袈裟をつけて高野山にご登山くだされば、諸堂、霊宝館の内拝が無料となり、金剛峯寺に参拝されると、記念品としてお線香を贈呈いたします。月二回発行の「高野山教報」をお届けし、高野山真言宗が発行するパンフレットなど印刷物をその都度お届けします。

● 会費年会費 一万円  
この年会費は、お大師さまの御教えを一人でも多くの人に知っていただくための広報活動に役立てられています。

御入会、お問い合わせ、パンフレットご希望の方は駕龍寺まで



# これからの行事

●弘法大師正御影供

○鎮守講 毎月一日午前十時

●春季彼岸会・永代経供養

○観音講 毎月十七日午前十時

三月二十日午前十時

法話、おとき差し上げます。

●孟蘭盆大施餓鬼会

○大師講 毎月二十一日午前十時

八月十七日午前十時

○奉仕の日(境内清掃)

●秋季彼岸会・永代経供養

毎月二十八日午前中

九月十七日午前十時

※永代供養承ります。

●帯江三十三観音霊場結願本尊

※御供養・御祈祷随時受付(要予約)

酒樽観音大祭

※いずれの行事にもお誘いあわせ、お気軽に御参詣ください。

十一月十七日(日)午前十時

※春・秋参拝旅行実施

●除夜会

十二月三十一日午後十一時四十五分

## 投稿募集

皆様の疑問質問にお答えします  
お便りをお寄せください

福寿海では読者の皆様からの投稿を募集しています。皆様の宗教体験や日常生活で感じたことなどをお寄せください。また「お答えします」のコーナーでは、皆様から寄せられた疑問質問に、住職はじめその道のプロが回答させていただきます。どんな些細な内容でも結構です。いろいろな質問をお待ちしています。

## 宛先

郵便番号、住所、氏名、年齢、性別、職業を明記の上、左記までお送りください。

〒771-0042 岡山県倉敷市二日市六〇〇  
高野山真言宗 駕龍寺「福寿海」係

●Eメールの場合は intokanviji.jp まで

※採用させていただいた方には駕龍寺より粗品を進呈させていただきます。



## 平成二十五年年忌繰出表

年忌法要の営みは全国各地によりまちまちですが、標準的に営まれている年忌を左に掲げました。詳しくは駕龍寺にお尋ね下さい。

一周忌	平成二十四年	逝去
三回忌	同 二十三年	〃
七回忌	同 十九年	〃
十三回忌	同 十三年	〃
十七回忌	同 九年	〃
二十三回忌	同 三年	〃
二十五回忌	同 元年	〃
二十七回忌	昭和六十二年	〃
三十三回忌	同 五十六年	〃
三十七回忌	同 五十二年	〃
五十回忌	同 三十九年	〃
七十回忌	同 十九年	〃
百回忌	大正 三年	〃

## 慧燈星懸 (編集後記)

▼先ず以て、編集の都合により第五号の発行が三月にずれ込みましたこと心よりお詫言申し上げます▼昔から二月は行く、二月は逃げる、三月は去るといふ▼子供のころ四月は「死ぬほど長い」と聞いたことがある、これは本当に言うのが怪しいものだが、言いつけて妙だ▼二月、一月、三月といえは、年が改まって行事が目白押しであるせいかそれに追われて、時間が経つのが早く感じるのだから▼四月は正月、成人式、受験生は試験の準備(受験申し込み)一月は節分受験シーズン本番、日数も他の月に比べて少ない▼二月は彼岸、卒業式があったり、進路が決まって四月から新しい生活される方は、その準備に忙しい時期だ▼四月は、暖かくなって、なんとなく落ち着いた気分になると、新しい環境での生活なので、時間が経つのが長く感じるのだから▼今、一月が一生懸命に逃げているところ、撞子も一月の逃げ切りめ間に原稿を仕上げるべく奮闘中である▼しっかりと捕まえておかないと気が付いたらもう四月ということもあるかも知れぬ(笑)▼今更ながら今年は何年である、巳の年は十二支の六番目に当たり、今までの流れが終焉を迎え、蛇が脱皮する如く新しいステージが始まる年だといふ▼駕龍寺も今年から高野山御開創十二百年を目前に控え、恒例行事の新設や参拝旅行の恒例化など新しい風が吹き始める年となりそうだ▼総代会においても、納骨堂の建立等、境内整備の機運が高まっているように見える▼自分自身の死後、位牌や遺骨がどうなるのか心配な、後継者のない人や墓守を頼める親類縁者のいない方々には心強い話である▼寺にも既に数件を超える永代供養や納骨の問い合わせがある▼これまでの「寺は葬式法事だけしている」という考え方は時代に合わせて変わってきていることが一般にも理解されてきていること証左であろうか▼四月から始める不動尊巡拝は住所で便りが聞かれる頃でもある▼花遍路の言葉もあるように、日頃の流れた毎日を少し立ち止まって仏の慈悲に触れる小旅行▼お誘いあわせ多数のお申し込みをお早めにお願いたします。